（様　式）

令和5年度　安倍川中学区小中一貫評価書

学校名：　静岡市立安倍川中学校

	大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育準備委員会等）	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動	【視点１】 学校の教育目標を グループ校で共有する	学校教育目標「未来（あす）をきりひらく子」を共有し、「夢」や「志」を実現する子どもの育成～キャリアプランニング～	①　(指標15) 「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合 （学校説明）「将来の夢や希望、目標を持っていますか」という質問に対し、生徒71%、保護者72%、職員83%が肯定的な回答をしている。学年別に見ると、学年が上がるにつれ、肯定的な回答がわずかだが減少している。これは、キャリア教育により、より自分の生き方を真剣に考えた結果だと思われる。今年度は、様々な場面で、安倍川中学校区の学校教育目標を意識した教育活動を行うことができ、小学校と連携した活動も増えた。今後も、キャリア形成をめざした教育活動をすすめていきたい。	A	中学校の3年間は、将来について、夢から現実へと意識が変わっていく時期である。高校へは、多くの生徒が進学し、高校卒業時が実際に自分の生き方を決める時期ではある。だからこそ、目的意識を持って高校を選択させたい。 「相手に伝わるように話す」ということはとても大切なことである。言葉の間違った使用もあるので、練習が大切。 家庭学習への取り組みの差が大きいのは、SNSやゲームが要因の一つであろう。これらの使用方法についての指導を継続していってほしい。また、家庭の協力も重要である。 挨拶は、とてもよくできるようになった。学校に訪問すると、気持ちよく挨拶をしてくれて、うれしい気持ちになる。より一歩踏み込んで、簡単な会話ができるようになるとさらによい。 少人数ながら、吹奏楽部が地域のお祭りや施設での演奏会を行っていて、活躍している。小中美術展など、地域との結びつきや、小学生へのアピールの場としても良い活動が多くあった。 地域との交流もよくできている。小中のつながりもよくできているので、高校とつながる活動もできるとよい。 災害時の中学生の力に期待している。北陸の地震でも、中学生が避難所の運営にかかわっているところは、トラブルが少ないと聞いている。中学生が何ができるのか把握するためにも、防災学習でどんなことに取り組んでいるか知りたい。 自分の力を地域のために役立てようという生徒や、地域に愛着を持っている生徒が多いことはとても嬉しい。健全育成大会でも、野球部の生徒がよく動いてくれた。やることが明確であれば、よく働く生徒が多いと感じた。	キャリア教育を軸とし、小中や高校、地域とも連携した取り組みを行っていきたい。また、様々な生き方に触れ、生徒の夢を現実に変えていけるような指導を行っていきたい。
	【視点2】 9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	○基礎的・基本的な学習内容の定着 ・安倍川プライドプロジェクトマップ（APPM）の活用 ・学習のルールの確立 ・道徳の重点「思いやり・感謝」	②　(独自)(小中) 相手に伝わるように、工夫して話したり書いたりする生徒児童の割合 （学校説明）「授業では、自分の考えが相手に伝わるように工夫して話したり書いたりしているか」という質問に対し、80%以上が肯定的に回答しており、昨年の結果より10%プラスの結果となっている。過去数年間は話し合い活動の制限などがあったが、昨年度、今年度ともに授業で生徒同士が関わる場面が増えたことにより、子どもたちが積極的に仲間とコミュニケーションを取るようになったこともポイントが上昇した要因の一つと言える。また、書いて伝える場面では、ノートやワークシートに加え、ICT機器を活用したスライド等を使ったプレゼンテーションの作成を様々な教科で行っていることも大きい。基礎学力を向上させるために、基礎学力テスト（国・数・英）だけでなく、社会科や理科でも用語や化学式などの小テストを行うことで知識の定着をはかっている。	A		相手を意識しながら書いたり話したりできる生徒が増えてきたので、今後は自信をもって自分の考えや思いを表現できる生徒を育てていくために、授業の中でも「アウトプットする」場面を大切にしていきたい。また、引き続き基本的な学習内容の定着を目指し、各教科の授業でも意識的に取り組んでいきたい。
		○自己有用感、達成感の充実 ・あいさつ運動 ・児童会／生徒会活動 ・SU集会　クラス代表の言葉	③　(独自)(小中) 自分を活かすことができる場面で力を発揮しようとする児童生徒の割合 （学校説明）「自分を活かし、力を発揮しようと心がけて行動しようとしていますか。」という質問に対して、生徒88%、保護者84%が肯定的な回答をしている。これには、あいさつ運動やエコ活動、地域清掃といった生徒会活動への積極的な参加が要因であると考えられる。また、体育祭といった行事活動でも、運動が得意な生徒だけが活躍するのではなく、全校生徒一人一人に役割が与えられ、活躍の場が設けられていたこともこの数字に大きく関わっているように感じられる。今年度はSU集会での代表の言葉を、学級から選出し、全校生徒の前で発言をする場も設定した。今後も様々な場でのリーダーの育成を図っていきたい。	A		来年度も生徒が主体的に活動し、力を発揮できる場面を設定していきたい。体育祭などの行事だけではなく、学級活動や専門委員など様々な場面で生徒一人一人が輝ける取り組みを行っていきたい。
		○安定した生活習慣の持続 ・自分から進んであいさつをする ・時と場に合った正しい言葉遣い ・時間を守る・きちんと家庭学習に取り組む ・GSW（グッド・スリープ・ウィーク）	④　(独自) ルールやマナーを守り、気持ちよく生活しようとする児童生徒の割合 （学校説明）「学習態度、挨拶、言葉遣い、整頓、時間などルールやマナーを守って、学校生活を送っているか」という質問に対し、保護者・生徒ともに90%以上が肯定的に回答している。SU集会で、学校生活で守るべきルールを共有し、生徒に浸透していると考えられている。また、授業開始時には、生徒同士が声を掛け合い、時間を守ろうとする意識が感じられる。グッドスリープウィークの取り組みをできている。一方、家庭学習においては個人差が大きいため、生徒全体が家庭学習に意欲的に取り組める工夫をしていきたい。	A		学校生活での守るべきルールを共有し、生徒に浸透できる仕組みを来年度も取り組んでいきたい。生徒同士が声を掛け合い時間への意識していき、安心して学校生活を過ごせるようにしていきたい。
	【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	○職員研修・交流 ・小中一貫合同研修会 ・安倍川中学校区の子を見合う会 ・安倍川GD（グループデイ）	⑤　(指標23) 「学年や校種の枠を越えて、連携を図っている」教職員の割合 （学校説明）「教職員は学年や校種の枠を超えて連携を図っている」という質問に対し、職員の79%が肯定的に回答した。毎月1回、安倍川グループデイを設定し、全体研修会や分科会をもった。めざす子どもの姿を再度見直し、よりわかりやすい表現で共有したり、そのための手立てを小中の垣根を越えて話し合ったりと、小中の職員間で交流することができた。	A		今年度実施した小中一貫の活動を振り返り、継続、改善していきたい。令和6年度も、安倍川GDや子どもを見合う会、小中合同の学校保健委員会を計画している。より一層、学年、校種の枠を超えて連携し、9年間で系統的に子どもを育てていきたい。
		○児童生徒の交流・共通の取り組み ・安倍川もちの日（小中全校集会） ・あいさつ活動　・合同学校保健委員会 ・小学校6年生の中学校体験、合唱見学 ・地域の魅力発表交流	⑥　(独自)安倍川中学校区の児童や生徒との交流を通して、お互いにそのよさを知ったり、かかわりたいと考える児童生徒の割合 （学校説明）「安倍川中学校区の児童・生徒の交流を通して、お互いにそのよさや係わることの大切さを実感できている」という質問に対し、生徒の96%が肯定的に答え、昨年度よりもさらに上昇している。今年度は、「安倍川もちの日」に三校で集まることができ、実際に顔を合わせることで、より地域に育つ仲間という意識を持つことができたと考える。また、合同学校保健委員会では、各校の保健委員会を中心に自分たちで会を運営し、共通の目標に向け考え場を持つことができた。	A		
	【視点4】 地域との連携	○愛郷心の育成 ・地域の歴史文化学習 ・地域の財（人・物）から学ぶ 　あべかわ学（しずおか学） ・安倍川中グループ図工美術展	⑦　(独自)（小）地域の様子や歴史について学ぶことで、そのよさや人々の願いが分かる（中）人々の想いや願いを理解し、自分の力を地域のために役立てることを考え、行動に移す 児童生徒の割合 （学校説明）「自分の力を地域のために役立てようと考えて行動しているか」という質問に対し、73%の生徒が肯定的に回答しており、昨年度よりも大幅に上昇している。読み聞かせボランティア、調理実習サポート、そば打ち体験講師など、多くの活動において、地域の皆様のおカをお借りして活動できた。また、2年生の職場体験活動で学区の多くの事業所にご協力いただき、1年生でも、地域の伝統工芸を中心に職業講話をいただくことで、安倍川中学校区ならではの、働くことの大変さややりがいを感じることができた。さらに、「地域の魅力再発見」というテーマで学校評議員様にお話をいただき、地域の魅力について再認識することができ、地域の財を活用して多くのことを学ぶことができた。また、安倍川花火清掃では、地域の誇る行事へ貢献することができた。	A		今年度まとめた「地域の財」や各学年の活動の様子をさらにブラッシュアップし、継続して取り組んでいけるように精選していきたい。また、「地域に支えられている」という感謝の気持ちを感じ、伝えられるような活動にも取り組みたい。 今年度から、授業開始時間が早まった。このことでの課題と成果を蓄積し、来年度以降の教育課程に生かしていきたい。また、コロナ明けの学校行事を継続、改善、中止含めてよく検討し、厳選していきたい。
	学校環境	○教師の業務改善（働き方改革） ・学校行事や会議の内容精選	⑧　(独自)業務改善（働き方改革）を意識して勤務している教職員の割合 （学校説明）「業務改善を意識して勤務している」という質問に対し、79%の職員が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、昨年度よりも20%以上上昇している。保護者との連絡、お便りの配布等でのC-Learningの活用や、授業内でのChromebookの利用が大幅にすすんでいる結果であると考える。生徒と関わる時間は確保し、生徒の活動を大切にしながら、行事や会議の精選など今後も取り組んでいきたい。	A		
	グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標	自己評価		
	キャリア形成をめざした小中一貫教育カリキュラム ○安倍川プライドの育成 1　安倍川地区に誇りをもつ子　2　仲間と共にがんばる子 3　前向きに取り組む子		⑨　(独自) 安倍川地区に生まれ、育って良かったと思う児童生徒の割合 （学校説明）「安倍川地区に生まれ、育ってよかったですか」という質問に対し、生徒の88%、保護者の90%、職員の90%が肯定的に回答している。多くの教育活動において、地域の皆様のご協力や小学校との連携ができた結果であると考える。今後も、安倍川地区に誇りをもてる生徒の育成をめざして取り組んでいきたい。	A		

静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動（全国調査等の活用）	学力の状況 （全国学力・学習状況調査）	小学校	（学校説明）【国語】正答率において田町小の児童は、県・全国平均を3ポイント下回っている。情報の扱いに関する問題のみ10ポイント以上、大幅に上回った。日頃のICT活用の成果である。その反面、自分の考えが伝わるように書くこと、文章の特徴を理解すること、目的を意識して要約すること、等に課題がある。自分の考えを相手にわかりやすく伝えること、目的をもって文章を読むこと、読書を楽しむこと、等の指導に力を入れていく。【算数】正答率において田町の児童は、県・全国平均とほぼ同程度の正答率であった。「数と計算」は、5問中5問で県・全国を大きく上回り、式を場面と関連付けて読み取る等の基本的な力がよく身についている。また、「伴って変わる2つの数量」について考える問題も、全て県・全国を上回っている。その反面、「図形の意味や性質」「グラフの読み取り」は苦手である。日常生活の中に起きる課題をデータ分析し、グラフ等から考える場面を増やしていきたい。（田町小） 【国語】短答式の問題（例：漢字を書く）では正答率が高い傾向が見られた。漢字を中心に「繰り返し学習」に取り組み、授業直後だけでなく、時間を置いてからまた同じ問題に取り組むことを実践してきた成果であると考える。また、「書くこと」を扱った問題においても県・全国平均よりも正答率が高い傾向が見られた。今後、自分の考えをより相手に伝わるような書き表し方の工夫をしていく素地ができていると捉え、主体的に取り組めるよう指導していく。【算数】どの領域も県・全国平均とほぼ同じ水準であった。6年間の全ての問題に取り組めるタブレットドリルを活用し、月ごと問題を解く学年を決め復習してきた成果だと考える。ただ、「思考・判断・表現」の問題で正答率が低いものがあり、正解することへの関心ばかりでなく、その過程を大事し、より良い考えを導きあう共同的な学びを意識した授業づくりを行っていきたいと考える。（駒形小）	部活動への参加率の低さが気になる。部活の在り方が変化していくため、難しい部分も多いが、こどもの活動の機会、場はつくっていきたい。 生徒が授業に楽しく取り組んでいる様子、先生方と良い関係が築けている様子が伝わってくる。話し合いの後、じっくり振り返って書く時間が取れれば、無回答率も減っていくのではないだろうか。 「学校は必ず行かなければならない所」ではないという風潮があり、別室登校や不登校がいるのであろう。いじめの早期発見ができているのは良い。後始末よりも前始末ができている。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 「伝える力の育成」については、今年度同様継続していく。令和6年度はさらに、「伝え方」に重点を置く。また、「学び方を学ぶ」場面を設定する。具体的には、振り返りの場面を設定し、「考えが深まった場面や要因の価値づけ」「自分の変容に気づく」「取り組みへの自己評価」を狙う。 また、家庭学習が充実するよう、計画的な取り組みができるような支援を行う。
		中学校	（学校説明） 全体的に見ると、全国平均、県平均と同程度の正答率であった。今年度、3教科で共通した点は、「基本的な知識を問う問題の正答率が高い」「記述式の無回答率が高い」という2点である。基礎は身についているが、それをもとに発展させたり、まとめたり、説明したり、ということが苦手であることがわかる。また、その苦手意識から自分の解答に不安が残り、記述をためらっている様子がわかる。反面、「各教科の学習が楽しい」と答えている生徒は全国平均より高く、学習の有用性を感じている生徒も80%を超える。従って、学校での授業には意欲的に取り組めていることがわかる。また、「自分と違う意見について考えることが楽しい」と答えている生徒は全国平均よりも14p高い。「話し合い」などの協動的な学びを活用し、思考を深めていけるような指導を心がけたい。		
	体力の状況 （新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査）	小学校	（学校説明）全国平均と比較し、長座体前屈・ボール投げは平均より低く、その他の種目は平均並であった。前年度の課題を踏まえ、仲間と体を動かす楽しさを味わえるよう、ペアで行える運動を企画し、自主的に運動に参加する児童が多く見られた。体育委員主催の遊び企画も継続し、友達と体を動かす良さを実感できる場を増やすことができた。課題として、自分の興味のもった運動は継続して取り組むことはできるが、苦手な運動に対しては消極的な姿が見られた。どの運動も主体的に取り組んでもらえるよう考えていきたい。（駒形小）握力、上体起こし、50m走、立ち幅跳びの4種目において、3～6年生で昨年度の静岡市の平均値を上回る結果となった。一方で、反復横跳びと20mシャトルランにおいて、ほぼ全ての学年で市の平均値を下回った。また、高学年になるにつれ各能力の平均値が下がり、特に女子のボール投げの平均値が低かった。これらから、敏捷性や、全身持久力に課題が見られることが分かる。今後は、より系統的・継続的にタイムランニングやゲーム及びボール運動に取り組むことを通して、「粘り強く取り組む力」や「イメージ通りに体を動かす力」など、思考をともなった運動特性の能力を高めていく必要がある。（田町小）		改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） ［中学校］ ・保健体育の授業では、毎時間ランニングや補強運動は継続して行い、巧みな動きや力強い動き、動きを持続する能力を効率よく高めることができるようにする。 ・全学年、陸上競技で長距離走を選択し、体つくり運動の領域に絡めて、動きを持続する能力を高めるための運動として長く走り続けることに主眼を置き取り扱う。
		中学校	（学校説明）10月に実施した新体力テストでは、20mシャトルランの項目について1～3年男女ほぼ全てにおいて、昨年度の市・県・全国平均を下回る結果となった。立ち幅とびの項目については、2，3年男女ほぼ全てにおいて、反復横とびの項目については1年男女において、市・県・全国平均を上回る結果となった。これらの結果から、持久力の低下が課題である。また、同集団において昨年度の記録と比較すると、2年女子では3項目について昨年度の平均を下回る結果となった。運動部活動への加入率は、1，3年が学年全体の6割、2年が学年全体の4割である。日頃から運動を行う習慣のない生徒が多いことが原因の一つと考えられる。また、10月でも残暑の厳しい日が多いため、生徒の運動への意欲低下につながらないような環境面にも配慮する必要があると考える。体育の授業においては、運動量の確保、体の使い方という点においても指導内容を工夫していきたい。		
	生徒指導の状況 （学校いじめ防止基本方針）		（学校説明）生徒の悩みやいじめの早期発見のため、日常生活でのかかわりの他に、悩み事アンケート（年3回）・教育相談（年3回）・生徒個人のアセスメント（年2回）を実施している。7月には、教育委員会から出されている「いじめの対応ポイントチェックリスト」を用いて、全職員で初期対応・事後対応の留意点を再確認した。また、実際にいじめの訴えがあった場合には、学校いじめ対策組織に情報を集め、早期対応を行い、保護者への連絡も事後の様子報告まで含め丁寧に取り組み解決までつなげた。今後も、SC・SSW・関係機関とも連携し、学校全体で組織的な対応を心がけていきたい。		改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） ・週1回相談部会を設け、各学年の支援の必要な生徒のアセスメントを共有する。 ・不登校生徒の不登校の状態を、「長期欠席等の状態評価指標」をもとに、状態のキープまたは改善ができるよう支援を継続していく。